

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 柏 美智  
学位 博士 (保健学)  
学位記番号 新大院博 (保) 第42号  
学位授与の日付 令和 3年 9月21日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当  
博士論文名 困難に陥った一般病棟看護チームのレジリエンス表出による回復のプロセス

論文審査委員 主査 教授 定方 美恵子  
副査 教授 小林 恵子  
副査 教授 中村 勝  
副査 教授 小山 諭  
副査 教授 小山 千加代 (新潟医療福祉大学)

博士論文の要旨

緊急性と正確性が要求される緊張に満ちた医療現場において、看護業務は多忙を極め、常に医療事故の危険性にさらされている。看護チームにおいては看護師同士の関係性や多職種との連携、ケアの場面においても、様々な困難が生じるが、たとえ困難に直面したとしても、抵抗性や弾力性を保って回復し、レジリエンスを備えることが重要である。近年では、チームのレジリエンスを時間的経過の中で捉えることの必要性が指摘されているが、困難に直面した看護チームはレジリエンスを表出してどう回復のプロセスをたどるのか、言及した研究は行われていない。本論文では、看護チームがレジリエンスによって回復する態様に注目して、そのプロセスを記述したうえでチームのレジリエンスを考察し、さらに看護チームの経験した困難からの回復への示唆を考察している。

序論に引き続き文献検討が詳細に記述され、レジリエンスの言語的由来を踏まえ、各分野で使われているレジリエンスの定義およびレジリエンス研究の歴史について記述し、個人のレジリエンスのみならず集団を対象としたレジリエンス研究について検討し、特に看護学における研究の動向を概観している。

次いで、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる本論文の主となる研究について、研究方法・結果・考察が記述されている。本論文は一般病棟の看護チームに属する経験6か月以上の看護師を対象として、チームが陥った困難の体験および、困難な状況からチームが回復したと思う体験、それらの体験のプロセスで生じたチームの変化について、語ることを同意した者を参加者とした。研究参加者は20名、看護師経験年数は平均16年であった。データ分析の結果、38の概念と16のサブカテゴリーが生成され、【混迷】を始まりとする、【模索】【醸成】【強化】【変容】の5つのカテゴリーによって、回復のプロセスが説明できるとしている。考察では、この5つのカテゴリーについて、結果と引用文献をもとに各カテゴリーの局面におけるチームのレジリエンスの態様を論述している。次いで、看護チームがレジリエンスを表出しながら回復するプロセスにおいては、

チームの相互作用を主軸とした回復、対話の成立によるチーム機能の回復、病棟外へのつながりによるチームの強化、困難からの回復のプロセスで経験知を獲得していくことが、さらにレジリエンスを高めることになると指摘している。最後に研究の限界として、困難が生じた現場に研究者が入ることは倫理的観点から難しいことから、個々の看護師の語りによる分析となったことを指摘し、結論を述べている。

#### 審査結果の要旨

学位申請論文は、主査1名、副査4名の計5名で審査を行った。

#### 1. 保健学における研究の価値と貢献

緊急性と正確性が要求される緊張に満ちた医療現場において、看護業務は多忙を極め、常に医療事故の危険にさらされている。このような場で生じる看護チームの困難は、看護師同士の関係性、多職種との連携、ケアの場面で起こる問題など様々あるが、たとえ困難に直面したとしても抵抗性や弾力性を保って回復し、レジリエンスを備えることが重要である。本論文では、看護チームがレジリエンスによって回復する態様に注目して、そのプロセスを記述したうえでチームのレジリエンスを考察し、さらに看護チームが経験した困難からの回復への示唆を考察している。新規性、有効性、信頼性のいずれも秀でており、保健学（特に看護学分野）に貢献する優れた論文であると、判断した。

#### 2. 論文構成と内容に関する審査

本論文は、1「序論」、2「文献検討」、3「研究方法」、4「結果」、5「考察」、6「結論」で構成されており、論文の趣旨を把握するために、各項の内容は十分に詳細に書かれている。

題目・背景・目的・方法・倫理的配慮・結果・考察・結論などの項目について審査を行った。当該論文はレジリエンスに関する十分な文献検討を行い、看護師の経験年数が平均16年の20名の看護師を対象に半構造化面接を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法に基づき、困難に陥った一般病棟看護チームのレジリエンス表出による回復のプロセスを分析し考察している。倫理面に関しては新潟大学倫理審査委員会の審査・承認を得て行っている。以上のことから題目・背景ならびに目的・方法・倫理的配慮に関しては十分な内容であると判断した。研究の結果をカテゴリーとストーリーラインに基づき適切に示しており、研究の限界についても述べながら研究結果について適切な引用文献を用いて十分な考察を行っていた。これらのことから、以下の点を全て満たしていると判断した。

- ・タイトルが、論文の趣旨を捉えており明解で簡潔である。
- ・目的と背景が、明解かつ簡潔に記されている。
- ・理論／方法が、正しく論理的であり、客観的に明解に記述されている。
- ・結果が、正当で、図、表が適切であり、客観的・論理的に記述されている。
- ・考察が、正当で客観的・論理的であり、著者の主張や結論を支持するデータが十分である。
- ・結論が、目的に対応して適切に導かれており、記述が簡潔である。
- ・引用文献が、本文中に現れた順に適切に参照されている。
- ・表が、見やすく、数や表現が適切である。

- ・図が、見やすく、数や表現が適切ある。
- ・キャプションが、明解で適切である。
- ・書式が、適切である（誤字脱字がない、文体が統一されている、用語が適切である、など）  
よって、論文構成およびその内容は学位論文としての要件を満たすものであると判断する。

### 3. 総括

審査の結果、本論文は博士(保健学)の学位論文として十分な価値を有するものとする。